

現在、女川原子力発電所では、東日本大震災により被害を受けた設備の復旧作業ならびに東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえた津波・地震に対するさらなる安全対策を進めています。

『安全はすべてに優先する』との考えのもと、本年も地域の皆さまから信頼される発電所をめざし、発電所が丸となってしっかりと取り組んでまいります。

《「こんにちは訪問」を実施しました》

女川原子力発電所では、地域の皆さまに発電所の状況をお知らせし、ご意見をいただく対話活動「こんにちは訪問」を年1回程度実施しています。

20回目となる今回は、12月5日から16日にかけて、発電所所員が女川町と石巻市の牡鹿半島部の約4,200戸を訪問し、地震発生後の女川原子力発電所の状況や地震・津波に対するさらなる安全対策への取り組みなどについて説明しました。

対話活動の中で皆さまからいただいた貴重なご意見は、今後の発電所の取り組みなどに反映してまいります。



▲発電所所員が各戸を訪問し、全号機が安全に停止していること、大容量電源設備や防潮堤の設置などさらなる安全対策の取り組みについて説明しました



▲地域の方々からは「福島のような事故を起こさないようにして欲しい」「災害があってからでは遅い。安全には万全を期してもらいたい」などのご意見をいただきました

【発電所の運転状況（12月末現在）】

号機	運転状況	主な動き
1号機	定期検査中	第20回定期検査を実施しています
2号機	定期検査中	第11回定期検査を実施しています
3号機	定期検査中	第7回定期検査を実施しています

《女川原子力発電所の状況について》

東北地方太平洋沖地震により、女川原子力発電所の全号機は設計どおりに自動停止し、安定した状態で安全に停止しています。

現在実施している定期検査において、トラブルに該当しない軽度な事象が2件確認されましたが、いずれも安全上問題となる事象ではなく、今後、適切に補修を実施いたします。

また、地震・津波による主要設備への軽微な被害が新たに1件確認され、これまでに確認された軽微な被害は全部で61件になりましたが、いずれも安全上問題となる事象ではなく、このうち31件が復旧しています。

■定期検査において確認されたトラブルに該当しない軽度な事象（11月分）

2号機	蒸気タービン車室および隔板における指示模様について
3号機	制御棒駆動水ポンプ（B）吐出逆止弁の浸食について

■新たに確認された地震・津波による主要設備への軽微な被害（11月分）

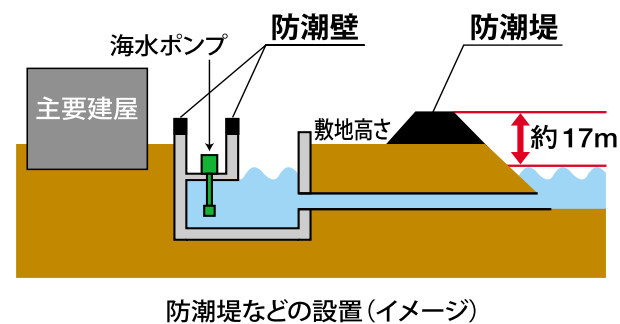
2号機	2号機蒸気タービン中間軸受箱の基礎ボルト曲がり
-----	-------------------------

防潮堤の本体工事を開始しました

女川原子力発電所では、東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえた緊急安全対策の一つである防潮堤の設置工事を12月1日に開始しました（平成24年4月完成予定）。

現在の発電所の敷地（高さ約14メートル）の上に、約3メートルの高さの防潮堤を設置することにより、津波に対する余裕を高め、安全性を向上させます。

今後は防潮堤の工を進めるとともに、非常用海水ポンプ施設への浸水を防ぐために高さ約2メートルの防潮壁を設置します（平成24年4月完成予定）。



▲発電所敷地（高さ約14メートル）に、高さ約3メートル・長さ約600メートルの防潮堤を設置します。写真の木柱の頂部が海面から約17メートルの高さになります

《「東北電力クリスマスドリーム」を開催しました》

12月17日に石巻市の牡鹿中学校において、12月18日に女川町の女川第二小学校において、今年で18回目となる「東北電力クリスマスドリーム」を開催しました。

石巻会場では、震災後、地域を元気づけるために太鼓を始めた鮎川小学校6年生の太鼓演奏や牡鹿中学校の全校生徒による合唱を、また、女川会場では、子どもたちによるオリジナルミュージカルなどを来場者にお楽しみいただきました。



▲石巻会場の鮎川小学校6年生5名による和太鼓演奏（写真左）や、牡鹿中学校の全校生徒による「虹を渡って」など4曲の合唱（写真中）、女川会場のオリジナルミュージカル「フィッシュワールド・ウォーズ」（写真右）の様子。子どもたちの熱演に会場から惜しみない拍手が贈られました

《図画コンクールの作品展を開催します》

2月4日から12日まで、イオンモール石巻（営業時間10時～21時）専門店街1F「太陽の広場」において、「第10回 東北電力図画コンクール」の一次審査を通過した200点の作品を展示します。ぜひこの機会に、子どもたちが一生懸命描いた想像力あふれる“海の生きものたち”をお楽しみください。

最優秀賞



「海で無くなったのは、海のなかまたちが、作りだす。」
野蒜小学校 3年 石山 珠里さん

優秀賞



「クッションがに」
穀町幼稚園 年長 及川 大輝さん

優秀賞



「みんなで海をきれいにしよう」
須江小学校 3年 阿部 涼音さん

優秀賞



「エコオーシャンズ」
石巻小学校 1年 遠藤 雫さん

優秀賞



「未来屋くじら ホエールさん」
蛇田小学校 5年 阿部 麻弥さん

優秀賞



「地球を見まもる魚たち」
浜市小学校 4年 熱海 迪慈さん

優秀賞



「幸魚」
山下小学校 6年 佐々木 千夏さん

優秀賞



「[け]ちゃん海へ行く」
蛇田小学校 2年 及川 晃輝さん

優秀賞



「海中ガレキ撤去鯛（隊）」
大曲小学校 6年 阿部 蒼汰さん

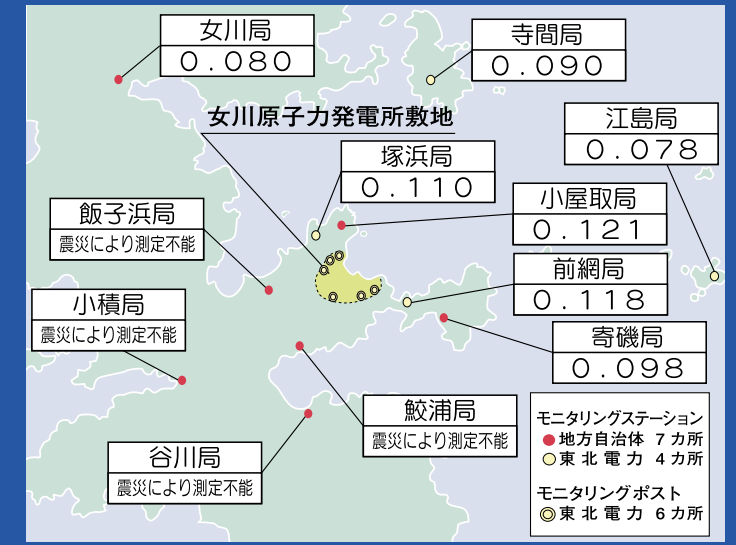
女川原子力PRセンターは、このたびの震災により休館しています。再開時期は「発電所だより」などでお知らせします。

《女川原子力発電所周辺の放射線》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

現在の測定値は、東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い、通常よりも若干高い値を示していますが、最大で0.11マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

モニタリングステーションの測定状況（12/31現在）



単位：マイクロシーベルト/時

モニタリングポストの最小値と最大値

測定日	最小値～最大値
3月11日	0.027～0.064
3月13日	1.8～21 (最大値) ^{※3}
4月1日	0.19～0.53
5月1日	0.10～0.25
6月1日	0.091～0.21
7月1日	0.086～0.21
8月1日	0.085～0.13
9月1日	0.084～0.13
10月1日	0.083～0.13
11月1日	0.080～0.12
12月1日	0.098～0.12
12月31日	0.077～0.11

単位：マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日の値、至近9カ月の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて空気中の放射線物質の濃度や気象データを測定しています。

※3 最大値が測定されたのは約10分間です。この値は1時間で胸部レントゲン1回の値（50マイクロシーベルト）の約半分程度の値です。

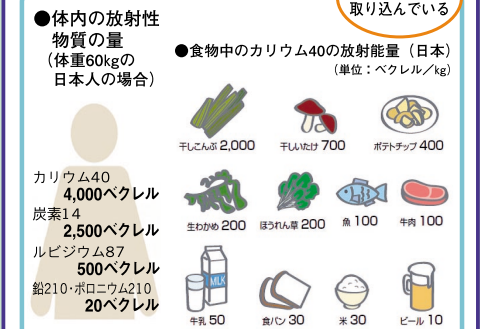
Q 食べ物から取り込んだ放射性物質は体内にたまり続けるの？

私たちが普段食べている食物にはカリウム40や炭素14などの放射性物質が含まれていますが、それらはすべて自然に存在するものです。もっとも多いカリウム40は、私たちが生きるために必要なカリウムの一つで、野菜や海藻などに多く含まれているミネラルの一種です。

なお、放射性物質は時間とともにだんだん減っていくうえに、汗や便、尿などの排せつによって体外に放出されるため、体内にたまり続けることはありません。



体内、食物中の自然放射性物質



出典：旧科学技術庁パンフレット